

事業評価シート（平成26年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	環境教育推進事業		
事業担当	環境部 環境政策課		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'01	自然との共生 四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	'01	1 自然を守るしくみづくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒、市民	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
	目的・目標		事業の概要
身近な自然環境との触れ合いや体験等を通じて、子どもから大人まで幅広い層の人が環境についての理解を深めています。		環境の保全や創造に向けて環境に対する市民意識の向上を図るため、環境学習情報を発信するとともに、学校版ISO「わかば環境ISO」や環境教室等の事業を展開します。	

2. 事業の検証

活動指標	指標名	環境教室等開催回数			単位	回
	説明・算定式	子ども環境教室(海編、川編、里山編)の開催回数				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	3	3	3	3	
	実績	3	3	3		
活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
	実績					
成果指標	指標名	わかば環境ISOで独自分野に取り組んでいる件数			単位	件
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	52	53	54	55	
	実績	52	52	53		
成果指標	指標名	環境教室等参加者数			単位	人
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	200	200	200	200	
	実績	167	222	206		
進捗状況	：予定どおり					
	遅れている理由					
平成26年度の主な取組と成果						
子ども環境教室を開催し、延べ206人(海編35人、川編109人、里山編62人)が参加しました。また、市内私立幼稚園に対して、わかば環境ISOへの取組みの呼びかけを行い、参加学校・園が1件増え53件となりました。環境ポスター・作文コンクールには355人が参加しました。						
平成26年度の検証結果	A：成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	幼稚園から小中学校までを通した環境教育や、自然環境に触れ合う機会の提供など地域における環境教育の必要性は高まっています。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	環境配慮行動について一定の枠組みを提示できる学校版わかば環境ISOの取組みの有効性は高く、外部からも評価されています。子ども環境教室では、自然環境との触れ合いを通じて環境への関心が高まっています。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	学校版わかば環境ISOは、その運用が定着してきていますので、各種事務の簡略化など事務改善をしています。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	子ども環境教室では、市民団体等と市の役割分担や実施方法等について適宜見直しが必要です。	高中低
今後に向けた課題の分析 環境教育の手法等を積極的に情報収集するとともに市民団体との協力や連携を深め、より効率的な環境教育を推進する必要があります。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		ポスター・作文コンクール、環境教室の開催等	ポスター・作文コンクール、環境教室の開催等	ポスター・作文コンクール、環境教室の開催等	ポスター・作文コンクール、環境教室の開催等
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	136	80	39	90
事業費 (A)		136	80	39	90
執行率 (%)		69.74	88.89	43.33	

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成28年度の取組方針	
環境教育の手法について他市の事例なども参考とし、市民団体、大学、事業者等との連携を深め、より効率的な環境教育を推進します。	
課長コメント	
次世代を担う子どもたちへの環境教育の充実は、長期的な視点からも極めて重要です。運営方法等の効率化を進めるとともに、継続的に事業内容の充実を図ります。	